



学部や志望校を決めた時期はいつ頃でしたか？

小島: 私は高1の4月に。その時は薬学部に行きたくて。和医大薬学部へ推薦で行きたいなと思って、和医大のイベントに参加して授業を受けたんですけど、ちょっと自分の興味から外れてるのかも、と感じました。高2で名古屋市立大のオープンキャンパスに行き、いまの薬学のトレンドが『データサイエンスの活用』みたいな話を聞いて、これはちょっと違うな、と思って学部を考え直すことにしました。それから歯学部に興味湧いて。歯学部の中では、阪大か岡山大、どちらにも魅力があったから、出願は共通テストの結果を見て決めよう、と思っていました。

脇村: 私は、ぼんやりと動物に、特に海獣に関わることをしたいな、と。調べていく中で、海獣メインで研究をしているのが北大で。中1の時に旅行で訪れた北大への憧れもあって、高2の春ぐらいに北大の水産学部を志望校にすることにしました。

ちゃ集中してやりこむという感じで。そのうえ、私自身も1つのことに集中すると他のことはできないタイプなので、大会前は勉強をしても部活のことが気になって仕方がなかった。台本、やっぱりこうした方がよかったかな、とか。だからそういう時期はもう部活に打ち込もう！と思ってました。その時は単語とサテラインの授業を受けるだけ、大会が終わったら絶対にこれとこれをする、みたいな感じで決めていたので、気持ちの切り替えはうまくいったかな、と。

ACのクラスライブの授業はどうでしたか？

小島: 数学の芳樹先生の授業は速かった。初めはこの先生めっちゃ怖い、ムチしかないやんと思ってた(笑)でもだんだん実はめっちゃ優しい、めっちゃいい先生だと思えるようになりました。テスト前は個別で質問をしたりして。久保田先生の英語の授業は楽しかった。仲良かったよな、みんな。そういうのも楽しみで塾に行ってた気がする。

脇村: 英語の授業は、チェックテストは厳しかったけど、授業でやるクイズとか面白かったから苦痛ではなかったな。グループワークもあって。和訳の仕方とか読み方とか、着眼点が人によって全然ちがって。そういうのを聞いて、自分に取り入れてみよう、っていう気付きもあったし。

2人: 今村先生(数学科)も怖かった！(笑)

脇村: 私、何も考えずに字を書いていたらめちゃくちゃ雑になるんです。それを見て「脇村、これ何を書いているの？」って(笑)

小島: 速かったし難しかったけど、当てられた時に

部活のことを聞かせてください。2人とも部長を務めましたね。

小島: 書道部は部長を決めるのが指名制なんです。その時の部長が中学の先輩だったので、その流れで指名が来るかな、と思っていて。だから勉強時間を確保するために、高1から勉強する習慣をつけようと。朝は5時に起きて、1時間半ぐらゐ勉強する、というのを続けてました。部活が忙しくて放課後にあまり勉強できなくても、朝勉強してるから、ある程度の時間は取れていたと思います。

脇村: 私はその逆で…。放送部は、大会前はめちゃく

進学先

岡山大学

歯学部


小島 果歩さん

 桐蔭高校
書道部 部長

進学先

北海道大学

水産学部


脇村 琴子さん

 桐蔭高校
放送部 部長

インタビュアー

 赤井栄木
(AC 県庁前校カウンセリングスタッフ)

ちゃんと答えよう、って思って必死で受けてたな(笑)

代ゼミサテライン講座の印象はどうですか？

小島： 大町先生のハイレベル生物問題演習が良かったです。レベルはめちゃくちゃ高かったけど、受けてよかった。予習も復習も時間がかかったし、授業中にメモすることも多くて。1回1時間半の授業なのに、内容はそれ以上のものが得られるなと思って。どういうふうに行けばいいのとか、問題文がどれだけ長くてどこを読んだらいいとか、グラフとか表の読み取り方とか、学校の授業では聞けないこといっぱい聞けたので、生物の偏差値がめちゃくちゃ上がりました。大町先生の授業を受けて、問題の見方が変わったな、と思います。

脇村： 私は鈴木先生の標準生物問題演習。生物は好きやけど、ちょっと伸び悩んでる時期があって。でも鈴木先生の授業を受けて苦手意識もなくなったし、すごくわかりやすかった。先生のギャグも面白かったので、ずっと笑いながら受けてた、みたいな。授業もビジュアルで学ぶというか、先生が体を張って教えてくれたので、“勉強してる”というより、楽しんでる感覚でした。教科書の、端っこに載ってるけどあんまり目がいけない部分とかも教えてくれて。北大の二次の問題は、教科書の端っこが結構出る、という傾向があったので、助けてもらえました。鈴木先生のおかげです。

小島： 亀田先生の化学は、絶対高2から受けるべき。予習はいらないけど、ノート作りが大変！私は2年の夏休みから受け始めてたので、3年になってからの負担が少なかったのかな、と。「急激に伸びた！」という感じではなかったんですけど、ほんとに最後の最後で、私大や二次の問題も解けるようになりました。無機化学と結晶格子のまとめページは、共テの日も、私大にも岡山にも全部持って行って、直前まで見ていました。私大はダイレクトにその問題が出たので、取れました。

脇村： 私は3年から亀田先生の授業を受け始めたけど、結構きつかった。

小島： うん、やばそうやった。夏に会った時、亀田先生が、亀田先生が…って(笑)

脇村： 英語は西川先生がよかったです。一文一文を丁寧に説明してくれたので、その考え方を習慣にすることができた。共テで速く読む、ということにも役立ったし、二次の時も。文法的なことを問われる問題にも役立ちました。

高1から受けてもらった、論理国語や速読聴英語は？

小島： 論理国語、受けてよかったです。ほんとに。共テは古文漢文で稼げ、みたいな話も割とよく聞くけど、自分は古文で思うように取ることができなかったから、評論で取るみたいな感じでした。

脇村： 論理国語は、1年生の夏休みに時間を作って、もう1回受けたんです。それで、1回目受けた時に、船口先生が言ったことをもう1回自分で実践し直したら、記述もすごく書きやすくなりました。学校では、論理構造図も、『はい、書いてみて！』みたいな感じで言われるけど、論理国語の授業では、書き方とか考え方とかを1つ1つ丁寧に教えてもらえるからよかったです。

小島： それめっちゃわかる！速読聴英語は、二次の直前までやってました。読むのが遅かったのでスピードを上げるためにやってたんですけど、定期考査とかで少し期間があいてしまったら、やっぱりちょっとスピードが落ちていて。1週間に1回はできるだけ受けるようにしてました。その結果、共テ模試とかでもちょっとずつ時間に余裕が出てきました。速読聴英語は継続することが大事ですね。レベル4の文量も最初は難しいと感じたけど、ざっくり読めるようになれば、全問正解できました。単語はターゲットをちゃんとやってたから、単語力が足りない、というのはあまり感じなかったかな。



英語の単語や熟語はどうやって覚えていたの？

小島： 久保田先生のチェックテストの範囲が、1週間に200個で。それが普通だったから(笑)、前日だけだと時間が足りないの、2、3日前からやって。で、大体、日本語と英語を結びつけて覚えて、学校の小テスト前に、文章で見て、アクセントや派生語、ちょっとした特別な言い方みたいなものも覚えて…の繰り返しでした。私は、5周ぐらい通ったかな、1番やってるところで10周ぐらい。多分最後の方とかはそれぐらいやったと思います。

脇村： 家でわざわざ単語の時間をとるということはしたくなくて。せっきく集中できる環境やから家では他の勉強したいなって思ってたので、基本は学校の休憩時間とか、隙間時間とかに。トータルで何周やったかは覚えてないですけど、多分7周ぐらいはやってるはずですよ。

EQ(AC英語特別講座)はどうだった？

小島： EQはほんまにきつかった。私は熟語を覚えるのが苦手で。英検の対策でも、熟語を勉強せずに来ていて。EQで初めて真面目に熟語を勉強しました(笑)

脇村： 悪夢…(笑)でも、リスニングでも聞き取れたし、とにかく共テでダイレクトにEQの効果を感じた。

集中できる勉強場所はどこだった？

小島： 私は飽き性なので、図書館、家、学校、塾を気分にかかせて巡ってたかな。塾で飽きてきたら図書館へ、図書館が飽きてきたらまた塾に戻ろうかな、みたいな感じですよ

脇村： 私は家が一番集中できた。自分の部屋が飽きたら、ちょっとリビングでやろうかな、って。

2人とも見事志望校に合格。勝因は何だと思う？

小島： 1年からの積み重ねかな。毎朝の勉強。定期考査の勉強はちゃんとやる、小テストは満点をとるっていうのを目標にしてやってたんで。1、2年で基礎は割と固められてたのかなと思ってます。特に英語はターゲットで単語をちゃんと覚えてたから、より得意になったっていうのはあると思います。

脇村： なんか…鏡やな！！(笑)私は、ちゃんとしてなくて…。日頃の勉強をちゃんとやってなかったっていうのもあるんで、基礎が固まっていなかったかな。だからやっぱり果歩ちゃんみたいにやってきたらよかったんだろうなって(笑)あとこれは、二次に向けた話になるんですけど、北大の問題を結構分析して、大学に特化して勉強したっていうのは大きかったなって思います。過去問を10年分くらい解くと、同じ感じの問題が多くて。そこから自分の弱いところはどこかということを考えられた。あと、間違えたところや、わからなかったところはもちろん、解けたところも全部教科書で確認したんです。そうすると、この問題を作った人、発展から出題するのが好きなんやな、みたいなことも予想できて(笑)。全部わかりきるまで、暗記するぐらいまで解きました。だから逆に北大以外の問題だったら多分取れなかったと思います。



1番しんどかった時期と、それをどんな風乗り越えたか教えて。

小島： 私のメンタルは、共テまでは結構安定してたんですよ。でも終わってから、崩れ始めて。自己採点をして、去年の阪大のボーダーラインに1%足りなくて。まだ全体の状況がわからない中、学校で『これじゃ無理やで』と言われて。一気に落ち込みました。

脇村： やばかったよな。こんなに沈んでいく？！っていうぐらい。

小島： そう…。でも、過去問を解いてみて、色々考えた結果、岡山大に出願を決めて。その結果に納得できたから、立ち直れました。で、次は、友達の推薦入試の合格発表のタイミング。学校では友達と3人でいつも勉強してたんですけど、友達2人が推薦で合格して、1人だけ残される、って言う…。一緒に勉強してたのに、横で赤本を片付け始めて「バイバイ！」みたいな。(笑)まだその時点では、私大の結果も出てなかったから、私は大学生になれるかどうか分からないのに、横では第一志望に合格した友達が2人、みたいな。家帰ってめちゃくちゃ泣きましたね(笑)

脇村： 共テの直前は自信がなくて。模試ではA判定の時もD判定の時もあったし。共テの形式に慣れ

ていないというのも不安だった。最後までやったら伸びるって言われてたけど、自分の中ではそういう感触はなかったし、どんどん日が迫ってくるし、どうしよう！みたいな。実際、共テが終わって自己採点したら、やっぱり危険なラインで(笑)親からも学校の先生からも、ちょっと考え直さない？みたいな感じで言われて。北大への出願は避けた方が得策やろうな、とは思ったんですけど…。でもこれで北大以外の大学に受かったとして、楽しめるのかな、って。北大のことを思ってきた時間が長かったから、ずっと「北大行きたかったな」って考えながら行くんちゃうかな、って思えてきて。それだったら、北大に挑戦して、玉砕しても後悔することはないな、と思って、北大にしました。勢いで受験したという感じです。

小島: 自転車で帰る時のメンタル、2人ともやばかったよな。試験の前日や当日は、お互いLINEを送りあったな。

お互い支え合ってきたんだね。後輩へのアドバイスをお願いします。

小島: 秋ぐらいに急に伸びる！ってよく言うと思うんですけど。それってそこまでの積み重ねがあってこそ伸びるものだと思います。多分そこまでの期間がすごく長くて。私も秋から少しずつ伸びていったから、やっぱり結果が出なくても努力し続けるのは大事なかなって思う。

脇村: そこで伸びる人は1年、2年も頑張りがあるから伸びるんですよ。受験というのがまだ見えてない時期でも、部活で忙しくても、とりあえず定期テストでは全力を出す、みたいな感じでやっている、3年になってから返ってくるやろうなと思います。

小島: 1年の時とかは受験というのがまだ想像できないから頑張りにくいと思うんですけど。私は1年の最初の定期考査の順位が50番ぐらいで。もし成績順にクラスを分けられたらA組に入れやんやんと思って、それがすごくショックでした。悔しかったからそこから頑張り始めて、1年の最後に20番まで上げることができました。定期考査で順位が出るから、それをバネにして頑張るっていうのも1つの方法かもしれないです。

脇村: 私は最初の模試で、学年で3位を取ったことで、結構いけるんちゃう？！って油断しました。部活で忙しくて手を抜いても、やったら巻き返せるやろう、みたいな。(笑)

2人とも全然タイプ違うよね(笑) 大学生活はどう過ごしたい？

小島: 4月2日に入学式があって、3日から専門科目の授業。一般科目より先に専門科目が始まって、テストがあって…それこそ高校と一緒に、1年からの基礎が6年後の国家試験に繋がることはわかっているので、まずはちゃんと歯科医師国家試験に合格するために、1年からコツコツ頑張っていきたいな、と。入学してからの勉強が受験勉強よりしんどいよ、という話は面接試験の時に言われたので、覚悟はしています。歯学部だからこそできる解剖実習とか、実技とか、それが楽しみです。今は矯正歯科に1番興味があるけど、口腔外科とか、総合歯科とか、学んでいく中で色々な科を見て決めていきたいなと思ってます。最終的には、この歯医者さんやったら絶対大丈夫って思ってもらえるような、技術も知識もあって、信頼される歯科医師になれたらなって思ってます。

脇村: 北大水産学部ならではのフィールドワークや、船上実習が楽しみです。楽しんでやりたいな、と。あと、動物の研究も幅が広くて、アザラシとかアシカ、クラゲ、ウミネコ…とか、そういうたくさん対象の中から、自分が研究に打ち込める動物を探したいな、って。卒業後の明確なビジョンはないんですけど、自然・動物保護の方面に進めたらいいな、と考えています。

編集後記 ～インタビューを終えて～



小島さんは努力家で、インタビューでも語ってくれた通り高1の時から意識を高く持ち、朝早く起きて勉強時間を確保し、学習習慣を身につけ、学校のテスト・模試でも力をつけていきました。そして、休みを利用して主体的に多くの大学の見学に行く事で、自分の学びたいことをしっかりと決めました。伸び悩む時期もありましたが、入試本番は力を発揮し、見事歯学部の現役合格を勝ち取りました。

脇村さんは、好きな漫画を我慢し、SNSにも制限をかけ、自分の行動をコントロールする術を模索しながら、必要な我慢と努力を重ねてきました。共通テストでは少し苦戦しましたが、北大へ行きたいという強い気持ちが二次対策の原動力になり、志望校合格を果たしました。

二人とも、部活動では部長で、責任のある立場にありながら、勉強も手を抜かず頑張りました。勉強と部活動を両立して志望校を目指す生徒にとってはお手本にしたいと思います。大学では勉強だけでなく、たくさんの学びがあると思います。将来の夢に向かって頑張りたいと思います。